



公共施設の女子トイレに生理用品を設置します

～トイレットペーパーがトイレに当たり前にあるように～

3月8日の国際女性デーにあわせ、松本市では市内の公共施設の女子トイレに生理用品（ナプキン）を設置し始めました。



©2011 YAMAGA

どうして設置することになったの？

松本山雅FCから生理用品の設置についてご提案をいただいたことがきっかけです。
松本山雅FCでは、社会連携活動（シャレン!）として、サンプロアルウィンのトイレに無料で生理用品を設置する取組みを行っています。

生理用品は買っているの？いくらくらいかかるの？

「レッドボックスジャパン」という慈善団体から無償提供を受けています。
「レッドボックスジャパン」では全国の個人・企業から寄付を募って、全国の学校や公共施設などのトイレに生理用品を無償で届けています。すごいですね！



どこのトイレに設置しているの？

170施設 385か所(3/13 現在)のトイレに設置しています。詳細は松本市ホームページをご覧ください。今後、設置する施設を拡大していく方針です。
また、設置しているトイレには、このマークが掲載してあります。
ご利用の際の目印にしてください。



どんな風に置いてあるの？

左の写真のようなイメージで、主にトイレの手洗い場に設置しています。
生理用品の種類は様々ですが、主に20～23cm程度の昼用のナプキンです。その場で必要な量をご利用いただければと思います。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



松本市公式 YouTube チャンネルにも
動画を出しています！
是非ご視聴ください！
(3/8 配信)



ジェンダー平等の扉を開いた偉人紹介

Vol.8

ジェンダー平等に尽力した日本の偉人をご紹介します

ひらつか らいちょう
平塚 らいてう (1886~1971)

文筆家、思想家、女性解放運動家

東京都千代田区出身。裕福な家庭に育ったが、学校の良妻賢母教育に失望。自分の向かうべき道に悩んでいたところ、恩師の勧めで女性だけの雑誌『青鞥』を創刊。「元始、女性は実に太陽であった」の一文はあまりにも有名。

晩年は平和活動・反戦運動に力を入れた。



今月知っておきたい言葉

包括的性教育

体や妊娠の仕組みに関するだけでなく、人間関係やジェンダー平等、性の多様性、幸福など幅広い内容について学ぶ教育のこと。

この言葉は、ユネスコが2009年に作成した国際的な指針である「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」で登場し、広く知られるようになった。



新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあります。どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。



『料理は妻の仕事ですか?』（アベナオミ著、KADOKAWA、2023年）

料理だけはしない夫に対して、不満と不安を抱える主人公。漫画なので、家庭の様子がイメージしやすく、世の中の奥様たちから「そうそう、わかるー!」という声が聞こえてきそうです。でも、もしかしたらやらなきゃいけないと思い込んでいたのは妻の方??そんな呪縛からも解放されるかも。

『図解ポケット 多様性時代のリテラシー ジェンダーがよくわかる本』

（瀬地山 角・中村 圭著、秀和システム、2022年）

「ジェンダー」について、今さら人に聞けないと思っている方、必見!ジェンダー研究の第一人者らが、図やグラフなどを交えながら、ジェンダーの基礎の基礎から分かりやすく説明しています。まずはこの本から学んでみましょう。



このニュースレターは、松本市公式ホームページでも見ることができます。

Facebook、Twitter もやっています!

松本市女性センター



<編集・発行>

松本市 人権共生課（松本市女性センター）

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 /FAX 0263-37-1153

✉ kyousei@city.matsumoto.lg.jp